

2011 田鎖幹夫展 〈痕跡〉 ステートメント

■作家の制作コンセプト

描いては、流し、描いては、洗い、描いては、削る
残された痕跡の中から何かが現れてくる時がある
何かに会えたと思う時、作品ができたと思う

◎画材

パネル、綿布、和紙、木炭、アクリル、岩絵の具などを用いています

■技法および制作についての説明（参考）

暗い色で地塗りした上に薄い和紙をはり、その上に描きます
上に張られた和紙は薄い和紙なので、裏から地塗の色が若干透けて感じられます。
その上に木炭で描いて、薄く溶いた絵の具をかけて半分流し、描いては流し
アクリル絵の具、岩絵の具等で描いては、紙ヤスリで削り
また木炭で描いては、流しというような感じで仕上げていきます

下書き、エスキースのようなものではなく、身体感覚のようなもので描いていきます
あらかじめあるイメージを描くというより、描いているうちに
自分の内にあるものを引き出すといった感じだと思います。

最初は油絵の具を使っていました、それがだんだんアクリルに
そしてアクリルに砂を混ぜるようになり、マットな画面を求めて
和紙、アクリル、岩絵の具の現在の方法に至っています。
古びた絵巻物、図面などの紙が年月を経て焼けたような肌合いが好きで
それを求めて現在のような技法にいたりしました。

制作中は音楽を流していることが多いですが

タイトルに曲名が付いているものは実際にその曲を聞きながら
音のリズム、強弱に合わせて手を動かし描き上げたものです
音を一つの取っかかりとしながら
自分の内にあるものを引き出すということを意識しているのかな、、、

今回の作品はモノクロ中心、木炭の線描をいかした作品が多いです
それから、洗ったり、流したりはいつものことなのですが
紙やすりで部分的にけっこう削っています
和紙を削って下の布地が出ているものもあります(黒い部分が下地が出てるところ)
そのあたりが今までと少し違います。
それから音楽の曲のタイトルが付いている作品が数点あります(全部ではありません)

2011年3月

田鎖 幹夫